

『看護教育』 バックナンバーのご案内

(1部) 定価：本体 1,400 円＋税
年間購読 好評受付中!
電子版もお選びいただけます。

Vol.55 No.12

2014 年 12 月
特集

理想的な「入学前学習」を求めて

「入学前学習」は、本来しなくても済むことが理想的でしょう。学習のための準備はカリキュラムにもないですし、本来の業務から外れているかもしれません。在学生の教育に専念したい、というのが忙しい先生方の本音かと思います。しかし、現実問題として、専門学校、大学問わず、入学生の多様化などの影響で、勉強するための学力が足りていない、モチベーションが低い、机に座る習慣がない、という声があがっています。そのような状況を受け、「入学前学習」の検討が進んでいます。ただもちろん入学前に何もかもを教えることはできませんし、取捨選択や手間が必要です。入学前の学生に何を学んでほしいか、どうなってほしいか、限られた時間と労力のなかで、学校としてどのようにかかわることができるのか。これらには明確な正解やルールがなく、学校それぞれで考えるしかありません。しかしこの試行錯誤こそ、理想的な学生像、理想的な教育像を考えることにつながるはず。すでに取り組んでいる先生も、これから取り組もうという先生も、今特集が入学前学習、そして教育そのものを考えるきっかけとなれば幸いです。

- 看護学生における入学前準備とは何か…… 広瀬京子
- 郵送でのやり取りを通して未来の学生たちに向き合う…… 金子秀子
- 専門職を目指すために国語力という土台を鍛える…… 高木真
- 生活習慣の見直しを含めた「推薦入学プログラム」…… 林洋子
- 専門基礎科目への橋渡しを考える…… 河野恵子
- 教育改善のための入学前教育——非看護系大学の状況から…… 江本理恵



Vol.55 No.11

2014 年 11 月
特集

基礎と臨床がともに学ぶ場をつくる 自治体が協力するケースを中心に

臨地実習を行う以上、学校と臨床現場でのコミュニケーションは欠かせません。しかし、よい看護師を育てたいという目標は同じであっても、立場の違いからその進め方は常にさまざまな問題をはらんだまま、今に至っています。また、卒業生の能力評価の統一や基礎・臨床がそれぞれ抱える課題の情報共有も十分とはいえない状況かと思えます。今回は、基礎と臨床がともに学ぶ場をつくり、そこで複数の学校、複数の臨床現場がそのつながりを深める関係づくりについて取り上げます。特に、自治体という大きなくくりのなかで、基礎と臨床が意思疎通を図ることにより、実習とその後の就職にとってもよい影響が生じているという結果は、今後の合同研修の推進を加速してくれるでしょう。学校と病院一対一の関係を深化することも重要ですが、学校や病院が横のつながりをもてるという意味で、このような試みには大いに意義があると考えます。1つの学校や病院でできないことも、スケールメリットを生むことで実現できる可能性もあります。ぜひとも、他の自治体でも今回のような試みがスタートできることを期待しています。

- 【愛知県の試み】自治体による養成所・病院、看護技術ジョイント研修開催の経緯…… 村瀬裕子
- 【愛知県の試み】看護基礎教育と新人看護職員研修をつなぐ養成所・病院、看護技術ジョイント研修の実践…… 小野由季子／高口みさき／村瀬裕子
看護教員としてジョイント研修に参加して…… 鈴木さおり
- 【神奈川県】自治体の立場から見たユニフィケーションシステムの概要と今後の展開…… 藤澤なお子
- 【神奈川県】県立看護専門学校のユニフィケーション…… 矢島ちあき／ハツ橋のぞみ
- 【東京都の試み】都立看護専門学校が運営する学校、臨床共同のワークショップ…… 内糸ちえ子



【2014 年 10 月号 (Vol.55 No.10)】

論文執筆のススメ

実例から学ぶ良い論文の書き方

【2014 年 7 月号 (Vol.55 No.7)】

精神看護教育に 改めて向き合う

【2014 年 9 月号 (Vol.55 No.9)】

求める学生確保のための方策 面接をめぐる課題を中心に

【2014 年 6 月号 (Vol.55 No.6)】

学生から看護師へのホップ！ ステップ！を支える教育

【2014 年 8 月号 (Vol.55 No.8)】

学習の「質」を高める パフォーマンス評価

【2014 年 5 月号 (Vol.55 No.5)】

ピアノの力を信じよう 学生同士で教え合うしくみの活用

バックナンバーのご注文・在庫照会について

- 2012 年 11 月号 (Vol. 53, No.11) 以前の号は、東亜ブック (TEL.03-3985-4701, FAX 03-3985-4703, <http://www.toabook.com/>)
- 2012 年 12 月号 (Vol. 53, No.12) 以降の号は、医学書院販売部 (TEL.03-3817-5659) にお願います。